

●文書倉



- 交通…東武伊勢崎線館林駅西口下車徒歩1分
- 開館時間…午前10時より午後4時まで(要予約)
- 休館日
土曜日・日曜日・祝祭日
夏季休暇日・年末年始
- 入館料…無料
- 所在地

群馬県館林市栄町3番1号
正田醤油株式会社内
TEL 0276 (74) 8100(代)
FAX 0276 (74) 1386



東武線館林駅西口下車、徒歩1分。
東武線浅草駅より1時間です。

正田記念館



 正田醤油株式会社

URL:<http://www.shoda.co.jp>

記念館の由来

正田家は代々現在の新田郡尾島町世良田に居住していましたが、正田六三郎（1682年没）が館林に移って商人となったのが館林の正田の始まりであります。

その後は代々「米文」の暖簾のもとに米穀商を営み、その名声は江戸から遠く大阪にまで聞こえ、又、かわら町名主を務める人物もでたとされています。

明治6年（1873年）3代正田文右衛門は醤油の醸造を創め爾来110有余年、今日に及んでおります。

記念館の建物は嘉永6年（1853年）2代正田文右衛門が店舗として建てたものであり、大正6年（1917年）正田醤油株式会社設立の後は昭和61年（1986年）迄その本社屋として使用されておりました。

創立70周年にあたり、内部に資料を収めて「正田記念館」として長く保存することにしたものであります。

昭和62年6月15日

●米穀商当時の品々



●文化3年（1806年）初代文右衛門の店卸し帳



●天保9年（1838年）2代文右衛門が館林城主井上河内守正春から拝領した蝶形さかな入れ

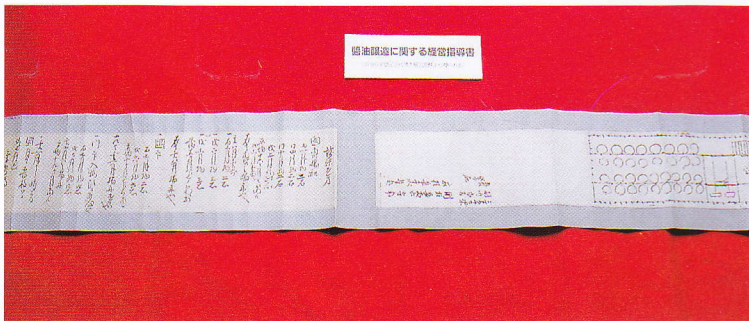




創業者
3代 正田文右衛門
(1818年～1895年)

3代文右衛門は米穀商が投機的であり子孫に残すべき事業ではないと考え、当時昵懇にしていた野田町の2代茂木房五郎氏に相談し、明治6年醤油醸造業を創めた。

- 明治6年（1873年）茂木房五郎氏より贈られた醤油醸造に関する経営指導書



- 創業当時の品々



- 創業当時の印控帳



5代 正田文右衛門
(1858年～1941年)

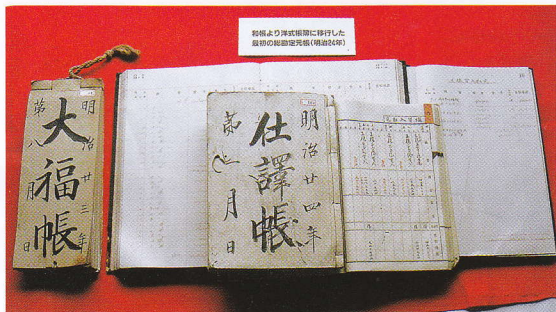
5代文右衛門は館林町長、群馬県醤油同業組合初代組合長、正田醤油を法人化し初代社長にそれぞれ就任するなど発展に努めた。





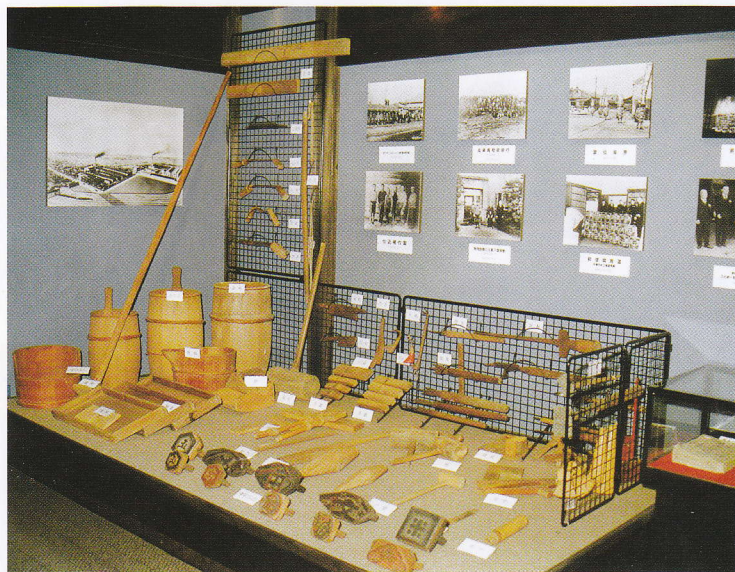
正田貞一郎は明治24年より明治33年まで約10年間醤油醸造に携わり、経営の近代化に努めた。

正田貞一郎
(1870年～1961年)



●明治24年、和帳より洋式帳簿に移行させた最初の総勘定元帳

●醤油醸造及び桶・樽の製作に用いた諸道具



6代文右衛門は永く日本醤油協会々長を務め業界の発展のために尽くした。

6代 正田文右衛門
(1890年～1973年)



●近代的工場設備と製品

